

上演型舞踊と対人距離 ——小空間における舞踊の美学

武藤大祐（群馬県立女子大学）

舞踊一般をトマス・トゥリノの分類に従って「上演型」と「参与型」に分けた場合、前者が強く視覚と結びつけられる傾向は、今日、顕著であるように思われる。18世紀にジャン＝ジョルジュ・ノヴェールは舞踊を絵画に接近させたが、額縁舞台から映画の発明を介し、昨今の TikTok などでのダンスの流行を鑑みれば、舞踊の上演をもっぱら視覚的なものと見なす文化には歴史的な連続性がある。ドミニク・マカイヴァー・ロペスは、個々の芸術ジャンルが特定の表現メディウム（媒体）および特定の感覚モダリティと呼応しているという通念を「メディウム・スペシフィシティの教義」と呼ぶが（ロペス 2024:69）、身体表現である舞踊を視覚性に還元することは、「教義」というより、むしろテクノロジーによって補強された近代的制度である。

事実、こうした舞踊の視覚化の趨勢は世界各地の伝統舞踊にも影響を及ぼしてきた。例えば近代的大劇場で演じられるようになった日本舞踊、フラメンコやベリーダンスなどは、「芸術化」とともに視覚への訴求に偏向してきた。すなわち聴覚、触覚、嗅覚などといった多様な感覚モダリティと舞踊の関係は捨象されるか、後景に退けられてきた。それと同時に、観客と演者の間の「親炙性」（服部幸雄）も稀薄化し、観客は演者を一方的に眼差す「観察者」（クレアリー）となっている。

とはいえこうした多様な感覚モダリティや親炙性は、今日でも、舞台と客席の距離が近い小空間での上演においては決して失われていない。したがって舞踊の視覚化は、上演空間の規模、とくに舞台と客席の距離や構造と深く関わるといえる。ゲイ・マコーレーが、演者と観客の間の距離は「視覚の条件であるだけでなく、理解の始まりそのものの条件でもある」というように（McAuley 1999:276-277）、上演が作り出す「意味」は空間の規模に応じて多様に異なり得る。

演者と観客の距離は、まず端的に「対人距離」と言い換えられる。かつてエドワード・ホールは対人距離と知覚や文化の関係に注目して近接学（Proxemics）を提唱したが、小空間での舞踊がもつ近接性の美的効果が正面から語られることはいまだ少ない。ホールによる四つの対人距離を舞台と客席の関係に適用すると、大部分の舞踊上演が用いるのは演説や儀式などに適した「公衆距離」である。これに対し、共同作業や形式ばった会合で用いられる「社会距離」、手を伸ばせば相手に何かを仕掛けられる「個体距離」、容易に相手に触れられる「密接距離」はいずれも、舞踊を上演

する上では「小空間」といえよう。

公衆距離を用いた舞踊と小空間のそれを比較したクレア・ダイソン（Dyson 2010）は、前者は空間的なパターンや図形、踊り手の離れ技を安全に（何ら責任を負わずに）イリュージョンとして鑑賞するのに適しているが（cf. 野村 2021:47）、それに対して後者は演者の身体表現を視覚的に拡大するのみならず、親密さと真正性をもたらすと指摘する。至近距離では「呼吸音が聞こえ、汗が見え、演者であると同時に本物の人間（a real person）であることがわかる」（Dyson 2010:39）。観客は「踊り手が今まさに生きている（そして踊っている）現実を理解する」（Dyson 2010:42）。また演者と観客の関係が双方向的であるため、観客も一人一人が上演の当事者として一定の責任とリスクを負う（Dyson 2010:40）。

ダイソンの分析は抽象的なコンテンポラリーダンス作品に基づいており、その考察は「人間」を単位とする演者と観客のコミュニケーションに収斂する。しかし様々な伝統舞踊に目を転じれば、小空間での上演には、より微細な次元に属する要素が様々にある。例えば座敷舞では、観客は踊り手が身にまとう香、衣擦れや足袋の擦れる音、さらには踏みしめられた畳が微かに沈み込む感触をも味わう。またフラメンコやカタクのように身体運動が音楽演奏の側面を併せもつ舞踊の場合、踊り手の足と床の衝突などから発せられた物理音が空気を伝って観客の皮膚を震わせる（他方、大劇場のPA（Public Address）による音源定位は観客の皮膚よりも知性と想像力に訴える）。

このように、小空間での舞踊は決して単なる視覚の対象ではなく、また必ずしも「人間」を基礎単位とはしない、マルチモーダルで多型的な身体的体験をもたらすものである。視覚優位の文化では等閑視される舞踊のこうした側面を考えることは、近代的な劇場が想定する「公共性」なるものと舞踊の関係の再考をも促すように思われる。

【参考文献】

- Dyson, Clare. 2010. "Variations in Proximity as a Tool for Audience Engagement." *Broga* 32: 33-43.
- Hall, Edward T. 1990 [1966] *The Hidden Dimension*. NY: Anchor Books.
- ロペス、ドミニク・マカイヴァー 2024 「芸術メディウムと感覚モダリティ：触図」（銭・村山訳）、『表象』18: 69-83。
- McAuley, Gay. 1999. *Space in Performance: Making Meaning in the Theatre*. Ann Arbor: The University of Michigan Press.
- 野村亮太 2021 『舞台と客席の近接学』、千葉：dZERO。

（JSPS 科研費 23K25291）